

「壁量(建築基準法)」のNG解消方法【壁量チェック】

文書管理番号:1186-03

Q.質問

壁量チェックのチェック結果の「壁量(建築基準法)」でNGがある。どのように修正したらよいか。

建築基準	準法によ	、る判定 N 	G 章 (李 基 準 法)	つりおいチェック	柱仍右动细星比	
四书 85 階	方向	存在壁量	必要壁	量×P 耐風	判定	
2階 1階	X方向 Y方向 X方向	16.83 22.26 53.72	14.49 14.49 52.71	5.97 17.26 20.41		
P:各打	Yカ回 指定基準	49.72 評系数	52.71	45.31	NG 再配置(<u>R</u>)	

A.回答

「
 」
 「健量チェック)の
 「
 図
 (
 耐力壁)で
 配置した
 面材・
 筋違の
 壁量(存在
 壁量)が、
 建築基準法を
 満たすた
 めに
 必要
 む と要
 し に達して
 いない
 場合に
 「
 NG」
 になります。

確認が必要な部分は赤文字で表示されるため、該当する階・方向の耐力壁を (耐力壁)から修正します。

CPU

ここでは、1 階 Y 方向が必要壁量 「52.71」 (必要壁量は、耐震・耐風のうち大きい値を採用) に対して、 存在壁量が「49.72」で必要壁量に達しておらず NG になったため、耐力壁を変更または追加し、Y 方 向の壁量を増やします。

また、壁量チェックの画面では、各階ごとの画面下と右に、必要壁量と存在壁量を示すバーメーターが 表示されます。



(赤色の丸):必要壁量

「壁量計算用床面積×係数」で求められる地震に関する必要壁量と、「見付面積×係数」で求められる 風に関する必要壁量のうち、大きいほうを採用した建築基準法を満たすために最低限必要な壁量 ■ (紺色のバー):存在壁量(耐力壁量)

「耐力壁の実長×壁倍率」で求められる、現在配置されている壁量のうち耐力壁にあたる壁量

【参考】

Image: Antiperative and the set of the set o

色の丸(●必要壁量)の位置を超えている場合は、存在壁量が必要壁量を満たしています。 洋室 収録 見付面積. 存在壁量が必要壁量を U, 超えていない 柱の有効.. 必要壁量×P 12 階 存在壁量 方向 判定 図面出力 耐風 耐震 じ 補助線 X方向 14.49 5.97 16.83 OK 2階 Y方向 17.26 14.49 22.26 ОK X方向 52.71 20.41 53.72 ОK 1階 Y方向 49.72 45.31 52.71 NG^{*} P:各指定基準係数 再配置(R) 存在壁量が必要壁量を超えている 種類を選択してください。 重い屋根の建物 X: 910.0/4 Y: 910.0/4

各階の X 方向(画面下側)、Y 方向(画面右側)にある紺色のバー(■ 存在壁量)が、それぞれの赤

▶ (耐力壁)の▶ (耐力壁手動配置)から、配置する面材・筋違を選択し、起点 – 終点で耐力壁を配置 します。

ここでは、B:筋違「木製筋違い(4.5 cm×9 cm)たすき掛け」、C:内部面材「(大壁)石膏ボー * ドーに設定します。





* Y方向の壁量が増えたことで、存在壁量が必要壁量より大きくなりました。

チェック結果 建築基準法による判定 OK 面材・筋違と柱チェック 壁量(建築基準法) つりあいチェック 柱の有効細長比 階 方向 存在壁量 必要壁量×P 単川定 2階 次方向 18.83 14.43 5.97 OK 2階 次方向 16.83 14.43 5.97 OK 11 (次方向 53.22 52.71 20.41 OK 11 (文方向 54.27 52.71 45.31 OK	× 「存在壁量:54.27 =54.27(前力壁量)+ 0.00(雑壁量)

【注意】

存在壁量が必要壁量を満たしても、壁量のつりあいが取れていない場合、建築基準法による判定は NG のままです。壁量のつりあいが取れるよう、面材・筋違の位置や壁の種類などを考慮して配置 する必要があります。

詳しくは、こちらをご覧ください。

[1187] 「つりあいチェック」の NG 解消方法 【壁量チェック】